

South Asian Network for Social and Agricultural Development (SANSAD)

インド・ウッタール・プラデーシュ州における気候に配慮した持続可能な農法の採用による、少数派コミュニティの食料安全保障強化活動

イベントの 延べ参加者数	3,200 人
助成活動がメディア に掲載された回数	10 回
活動の全体目標 に対する達成度	60%



2016年3月10日の農業者会議

◆成果と工夫したポイント

- 成果** ・研修受講者約 200 名のうち、30～40%（推定値）が自分の農地で有機農法を実践するようになった。
- ・研修受講者約 200 名のうち、50～60%（推定値）が学んだ知識や技能を周囲の人へ伝えている。
- 工夫** 有機農業の成果を見て未受講者の関心が高まることから、有機農業先進地への視察研修を行った。

課 題

化学肥料や殺虫剤の大量使用により、農業コストが上昇した一方、土地の疲弊によって収益が頭打ちになっているインドの農民は、疲弊し食料状況が悪化している。

活動内容

- ・農民対象研修を 20 村で実施し、のべ 1,913 名以上の参加を得た。
- ・パンフレット（計 4,000 部）、壁画スローガン（240 ヶ所）、ラリー（3 村で計 3 回）を通じて意識啓発を行なった。
- ・農業者会議を 2 回、地元の村役場と共催で開催し、各 600 名以上の一般農民参加者を得た。地方行政、NGO、農業大学等が実施に協力した。
- ・有機農業先進地への研修視察に農民 16 名が参加した。



有機農法で作った大根を手に

今後の課題

研修受講後に実践につなげるため、研修参加者の男女の割合を柔軟に対応する。